

東 風

第18号

平成15年 9 月

「教師の研修を支える教育研究所として」

島尻教育研究所 所 長 喜名 盛文

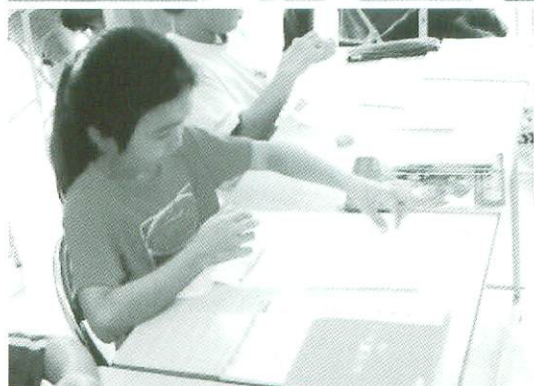
「生きる力」の育成

島尻地区校長会 中学校会長 阿嘉 広雄

○ 大好評！短期研修講座

○ 実践事例紹介

島尻教育研究所 第18期 教育研究員

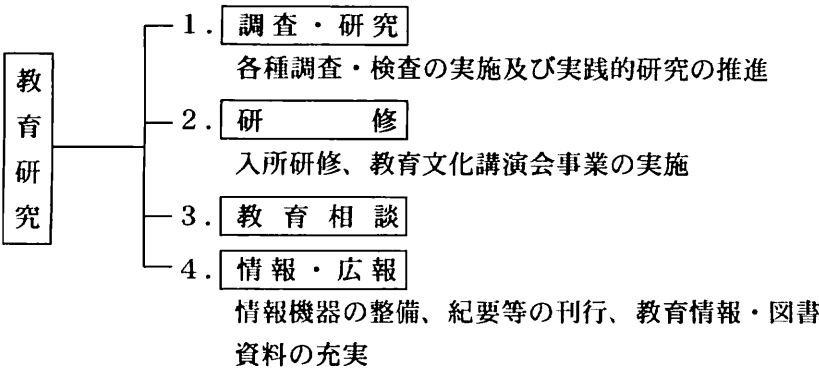


南部広域行政組合
島尻教育研究所

●設置の目的

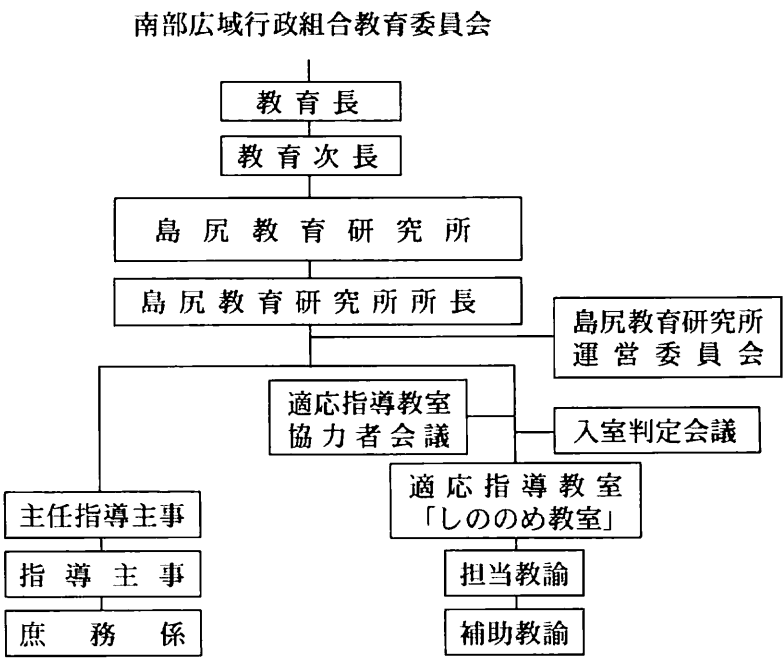
教育に関する調査・研究及び教育関係職員の研修を行い、資料提供並びに教育相談等の事業を通して島尻地区に於ける教育研究の中核的な存在とする。

●事業の四本柱



●組織・機構

1. 組織・機構



2. 所 員

職 名	氏 名	しのめ教室	
所 長	喜 名 盛 文	職 名	氏 名
主任指導主事	安谷屋 守 松	指 導 教 諭	城 田 由 勝
指 導 主 事	甲 斐 英 児	補 助 教 諭	山 内 修 子
庶 務 係	宮 里 紀 子		

目 次

「教師の研修を支える教育研究所として」	
島尻教育研究所 所 長 喜名 盛文	 1
「生きる力」の育成	
島尻地区校長会 中学校会長 阿嘉 広雄	 2
1 平成15年度 後期事業計画	 3
2 短期研修講座	
(1) 幼稚園教育講座	 4
(2) 情報教育講座	 5
(3) 幼稚園教頭・主任等宿泊研修会	 6
3 「スクーリング・サポート・ネットワーク (SSN) 整備事業」について	
しののめ教室担当者 城田 由勝	 7
4 実践事例紹介	
(1) 「みんなと遊ぶと楽しいな！」 大里村立大里南幼稚園教諭 屋我松枝	 8
(2) 「幼稚園のお庭は楽しいよ！」 南風原町立南風原幼稚園教頭 翁長麗子	 9
(3) 「お手紙を書こう」 糸満市立兼城小学校教諭 當銘恵子	 10
(4) 「伝えたいことをよく分かるように話そう」 知念村立知念小学校教諭 比嘉頼子	 11
(5) 「わり算スイスイできたよ！」 糸満市立真壁小学校教諭 來間勝枝	 12
(6) 「英語でコミュニケーションできちゃった！」 糸満市立潮平中学校教諭 赤嶺幸乃	 13
(7) 「友だちのいいところ発見！」 東風平町立東風平中学校教諭 小橋川あゆみ	 14
5 長期研修をふり返って 第18期教育研究員 委員長 來間 勝枝	 15
6 平成16年度教育研究員募集要項	 16
島尻教育研究所 逍遙歌	

教師の研修を支える教育研究所として



島 尻 教 育 研 究 所
所 長 喜 名 盛 文

教師は、専門職としての免許制度によって、一定の高度な養成教育を受け、職業に必要な専門性を身につけて教職に就きます。しかし、充実した教育活動を遂行するためには、たえず進展する社会や教育内容・方法に対応して専門性を磨く必要があります。また、「教育は全人格で勝負しなければならない」と言われるように教師には専門性とあわせて人格的、人間的側面（資質）が重視されます。このため、教師にとって自己を人間として高めたり、深めたりする努力も大事にしなければなりません。

教師としての資質や専門性の向上にあたっては、教師自らが研修に取り組むことが大切ですが、また、その取り組みを関係機関などが支援していく環境を整備することが重要となります。

島尻教育研究所は、平成6年4月、教職員に研修の機会と場を提供するとともに、学校の教育活動を支援する機関として14市町村で構成する南部広域行政組合によって設立されました。今年で設立10周年の節目を迎えています。

研究所は、設立以来関係者の努力により、その基盤が整うとともに、設立の趣旨を踏まえて地道に運営されてきました。現在、調査・研究、研修、教育相談、情報・広報の4本柱で事業を推進しています。

研修事業は、長期研修、短期研修、教育講演会を実施しています。長期研修は、前期、後期に分けて、それぞれ6ヶ月間、管内の幼・小・中学校教諭を教育研究員として年間15名受け入れています。これまでに133名がこの研修を修了し、学校現場で教育実践の中核となって活躍しています。短期研修は、夏季休業期間に情報教育講座、幼稚園教育講座、幼稚園教頭・主任等宿泊研修会を開催しています。どの講座も多数参加いただいて盛況です。また、著名な講師を招いて開催する教育講演会は聴衆が会場から溢れ出るほど好評いただいています。

今年度は適応指導教室の関連事業として新規に文部科学省委託事業の指定を受け、スクーリング・サポート・ネットワーク整備事業（SSN）を推進しています。その一環として、不登校等の問題に対応するために、現場で使えるカウンセリングの基本的な考え方の技法を内容とした「教育現場で使えるカウンセリング実践講座」を実施します。この事業は10月から2月にかけて4回、心理臨床の現場で活躍しておられる方を講師に招いて開催する予定です。

教育改革が進み、「画一と受け身から自立と創造へ」と学校教育の基調が大きく変わりつつある状況の中にあって、教師には意識の改革とともに、教科指導の面でも、生徒指導や学級経営の面でも、新たな資質や専門性が求められています。このような要請に応えるために研究所はどうあるべきかを念頭において、教師の研修が支えられるよう努めてまいります。教師の学舎として島尻教育研究所を積極的に利用していただきたいと思います。



「生きる力」の育成

島尻地区校長会 中学校会長 阿嘉 広雄
(具志頭中学校 校長)

新しい学習指導要領が「生きる力」を育成することを基本的なねらいとして、全国の小・中学校で（平成 14 年）4 月から全面実施されて 2 年目に入った。また、子どもたちの生活全体を見直し、ゆとりのある生活の中で、子どもたちが個性を生かしながら豊かな自己実現を図ることができるよう、完全学校週 5 制も昨年 4 月から同時スタートした。学校週 5 日制は、学校、家庭、地域社会の役割を明確にし、それぞれが協力して豊かな社会体験や自然体験などの様々な活動の機会を子どもたちに提供し、「生きる力」を育むことを目的としている。

そこで、新学習指導要領のねらい、学校週 5 日制の趣旨に基づいた「生きる力」を育むための、学校、家庭、地域社会のそれぞれの役割について考えてみたい。

学校の役割とは、これからの社会においては、生涯を通じて、いつでも主体的に学び続けるという生涯学習の基礎を作るという考え方が重要となる。学校では知育、徳育、体育についてバランスのとれた子どもの育成のため、学校教育目標を掲げて、新学習指導要領のもとで適切な教育課程を編成し、各教科・領域をとおして、基礎・基本を確実に身に付け、それを基に、よりよく問題を解決する能力や、豊かな人間性、健康と体力などの「生きる力」を育成することに取り組んでいる。さらに、学校内外での活動に関係の深い、地域の教育課題への取り組みや、地域活動への参加、地域の方々の生涯学習の中核的な拠点としての学校施設の開放等、地域の将来を担う子どもたちの教育に適切な役割分担のできる家庭・地域との連携した「開かれた学校づくり」が必要である。

家庭の役割としては、社会生活をしていく上で大切なことを、家族のふれあいをとおして身に付けさせることが重要であろう。それには、基本的な生活習慣、社会的なマナー、思いやりの心、生命を尊重する心、責任感、礼儀作法、情操など、「生きる力」の基礎・基本となる教育をすることである。これらは先ず家庭で育むものであり、学校教育以前に取り組んで欲しいものである。

地域の役割としては、地域の子どもたちは地域で育てるための多様な取り組みを進めていくことが大切である。地域行事を通して、同年齢、異年齢との交流やスポーツ活動、生活体験、社会体験、自然体験、ボランティア活動等を積み重ね、積極性、興味・関心、感性、連帯性等の「生きる力」を育成することが、将来の地域の担い手としての基礎・基本と考える。

このようなことから、家庭における親、地域における先輩や大人たち、学校における教師が「生きる力」の育成に、どこで、誰が、どう関わるかについて役割を明確に認識し、具体的な取り組みを図らなければならない。学校週 5 日制のもと、学校で学んだ各教科・道徳、特別活動、総合的な学習などの基礎・基本が、家庭・地域での生活や活動、交流、考え方に生かされ、家庭・地域で学んだ徳育、しつけ、情操教育などの、基礎・基本が学校の学習や集団活動、学校生活に生かされる時、その学習や活動・実践が、真の「生きる力」として子どもたちの身に付いていくであろう。これこそ学校、家庭、地域社会がそれぞれの役割を果たす望ましい連携であり、バランスのとれた「生きる力」の育成と考える。かつて、社会が学校に全幅の信頼を寄せ、子どもたちが親に教え育まれ、地域に見守り導かれたように！。

平成 15 年 9 月 4 日

平成15年度 後期事業計画 (10月～3月)

期 日	主 な 事 業 予 定
10月1日(水)	第19期教育研究員入所式・指導講師委嘱状交付式
10月8日(水)	第1回指導講師検討会(～10日)
10月17日(金)	研究計画検討会
10月24日(金)	理論研究項立て検討会
10月31日(金)	研究協力員検証授業「中学校数学」豊見城中学校
11月4日(火)	平成16年度教育研究員教育委員会応募締切
11月6日(木)	研究協力員検証保育 大里南幼稚園
11月10日(月)	平成16年度教育研究員教育研究所応募締切
11月18日(火)	第2回指導講師検討会(～20日)
11月20日(木)	研究協力員検証保育 高嶺幼稚園
11月27日(木)	中間検討会(～28日)
11月28日(金)	研究協力員検証授業「中学校数学」長嶺中学校
11月28日(金)	平成16年度教育研究員決定通知発送
12月8日(月)	第3回指導講師検討会 前半(～10日)
1月8日(木)	第3回指導講師検討会 後半(～13日)
1月23日(金)	研究協力員検証保育 上田幼稚園
1月27日(水)	教育講演会
2月4日(水)	第4回指導講師検討会(～6日)
2月19日(木)	研究報告書検討会(～20日)
3月3日(水)	第5回指導講師検討会(～5日)
3月17日(水)	研究報告会(南部総合福祉センター大ホール)
3月18日(木)	平成16年度期研究員オリエンテーション
3月23日(火)	第19期教育研究員修了式
3月26日(金)	第2回運営委員会
3月31日(水)	行政組合離任式

大好評！短期研修講座

(1) 幼稚園教育講座（7月29日～30日）

今年度の「幼稚園教育講座」も80名を超える幼稚園の先生方が受講し、2日間の日程で実施されました。今回の研修では、講演として琉大の平田幹夫先生による「子どもと保護者に寄り添った援助のあり方」でカウンセリングについて、また実践事例として那覇市立城東幼稚園主任の村田和美先生による「ちがいのなかからつながりを感じあう幼小連携」で幼稚園における小学校との連携のあり方を、さらに、実技研修として元与儀小学校教頭の大西栄保先生による「園児の指導に生かせる身近な物を利用したオモチャ作り」で身近な植物やチラシなど日用品を使ってできるオモチャの作り方について研修しました。どの内容も幼稚園に持ち帰り活用できるものばかりで、大変好評でした。



参加者の感想

○ 講話について

- ・一人一人を大事に、幼稚園でできることは何かについて考えさせられた。
- ・子どもに寄り添うこと、保護者と寄り添うことの大切さをしみじみ感じた。

○ 実践事例発表について

- ・幼小連携の具体的な糸口が見え参考になった。
- ・沖縄ならではの地域性を生かした取り組みはすばらしいと思った。

○ 実技研修

- ・身近な素材を利用したオモチャ作りは、子どもたちが驚いたり喜んだりしそうなものばかりで非常に楽しく、自分自身も勉強になった。
- ・昔遊びのよさを子どもたちに伝えてなかったことを反省した。



身近な素材が命を吹き込まれ、いろいろなものに変身していきます。



ガジュマルの葉っぱで作ったぞうり（鼻緒がかわいいでしょ！）

(2) 情報教育講座 (8月6日～8日)

「情報教育講座 (初級・中級)」には、20名の定員に対し毎年100名を超える応募者があります。そこで今回は、初級講座と中級講座を分け各コース20名で3日間の日程で実施されました。

会場は、佐敷町教育委員会のご協力により、佐敷小学校とシュガーホール内にあるコミュニティーホールをお借りしました。両施設とも最新のコンピュータ環境が整い、最高の研修会場となりました。

研修内容は、初級が「一太郎で文書をつくろう」「パワーポイントでプレゼンテーション」を中心に行い、文書作成で活用できる、デジタルカメラの実技研修も取り入れました。また、中級では表計算ソフトのエクセルを学校現場で実用的に活用できる便利な機能の紹介、ホームページを簡単に作れるホームページ作成ツールの実技研修などを中心に行いました。

当初3日間の研修予定が、台風の接近により、2日目が中止になるというアクシデントもありましたが、3日間の内容を2日間に凝縮した中身の濃い研修会となりました。現場に持ち帰り2学期からの教育実践に活用して頂けることを願っております。



参加者の感想

○ 初級コース

- ・ 基本的な操作ができるようになり、学年便りが作れるようになってよかった。
- ・ 基礎から丁寧に教えてもらえた。講師がどんな質問にも適切に答えてくれた。
- ・ 理解度に合わせてゆっくり進んでくれたので繰り返し練習することができた。

○ 中級コース

- ・ エクセルの実践的に活用できる方法を教えてもらえた。
- ・ ホームページビルダーというなかなか自分では始めにくいソフトにふれることができた。



指導講師の懇切丁寧な指導により、初めてのソフトもマスターすることができました。



わからないときは教え合って、一つ一つ確実にマスターしました。

幼稚園教頭・主任等宿泊研修会

(8月14日～15日)

幼稚園教頭・主任等宿泊研修会も3年目を迎え、年々研修内容が充実してきました。今回も島尻地区の各幼稚園から35名の教頭・主任の先生方、市町村教育委員会派遣指導主事10名、そして指導助言者4名を迎え、8月14日～15日の2日間、恩納村の白雲荘で行われました。

「時代に対応した幼稚園教育に向けて一園内研修の充実」の研修テーマのもと、これまでの3カ年の成果を踏まえた各園での取り組みの状況や今後の課題などについての報告がありました。その中で「教頭・主任の意識が変わり、園内研修への取り組みが充実してきた」「研究テーマが、より園や幼児の実態に即したものになってきた」「隣園との合同研修会や小学校との連携など、研修の幅が広がった」ことなどの成果が挙げられました。また、課題として「園内研修への意識改革を職員にどう広げていくか」「園内研修の成果を目に見える形でどう残していくか」「園内研修の自己評価をどう行うか」などが挙げられました。

その後、課題解決のための方策を探る活発な協議が行われ、「教頭がリーダーシップを発揮していくこと」「小学校との連携をより密にして研修の充実を図ること」「園長に指導・助言をもらいながら、園経営や園内研修の充実を図ること」などが確認されました。最後に指導助言者から、「職員一人一人に課題意識をしっかりと持たせることで主体的に園内研修に関わるようになること」「教頭・主任が見通しをもって研修をプログラムすること」「教頭・主任が園の雰囲気を作り若い教師を伸ばしていく気概を持つこと」など貴重な指導助言を頂きました。



講話「生きがいのある職場づくりをめざして」

研究協議に先立って、沖縄中央学園講師の町田妙子先生に講話をして頂きました。町田先生は、長年にわたり幼稚園教育に携わった経験をもとに、沖縄県における幼稚園教育の創生期の様子や職場での人間関係づくりの大切さ等について、わかりやすくお話ししてくださいました。実践を通して裏打ちされたお話だけに一つ一つが説得力のある内容でした。

今各園で、職場づくりに邁進している教頭・主任の先生方にとって、貴重な示唆を与えてくれるとともに、頑張っていこうというパワーもいただきました。

町田 妙子先生
南部広域行政組合



スクーリング・サポート・ネットワーク(SSN)整備事業について



島尻教育研究所 適応指導教室「しののめ教室」
担当教諭 城 田 由 勝

平成 15 年 3 月に『今後の不登校への対応の在り方について（報告）』（不登校問題に関する調査研究協力者会議）が出されました。その中で不登校への対応について「5つの視点」が示されています。不登校に関わる者にとって多くの示唆を得る報告で一度は熟読したいものです。

さて、「しののめ教室」でも「5つの視点」を生かし、活動を実施しているところです。特に、今年度は文部科学省の委託研究の指定

を受けスクーリング・サポート・ネットワーク(SSN)整備事業を開始しています。これは視点2の「連携ネットワークによる支援」になります。今回はSSNの取組状況を紹介します。

1 将来の社会的自立に向けた支援の視点
2 連携ネットワークによる支援
3 将来の社会的自立のための学校教育の意義・役割
4 働きかけることや関わりを持つことの重要性
5 保護者の役割と家庭への支援

1 適応指導教室の充実

これまで以上に心因性不登校児童生徒の適応指導プログラムの充実を図っています。活動内容としては学習活動、体験活動、教育相談活動を行っています。今年度はリーフレットを作成・配布しましたので詳しくはそれをご覧ください。

2 児童生徒支援加配等研修会

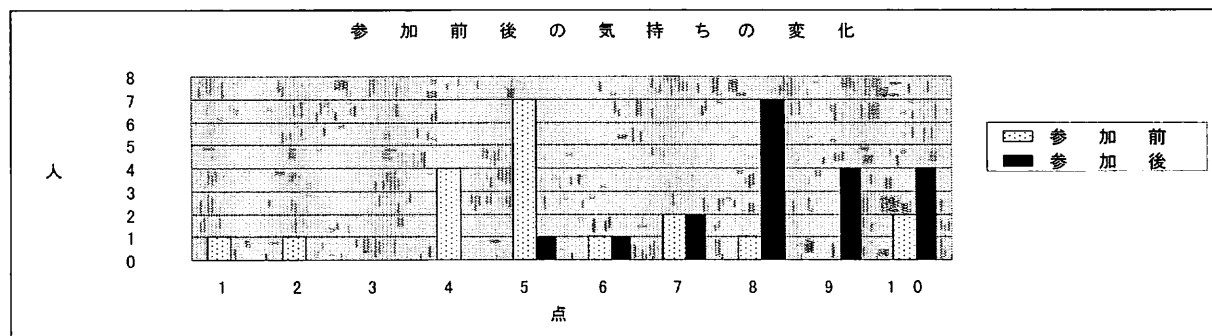
島尻教育事務所管内の中学校5校に配置されている児童生徒支援加配（不登校加配）と「しののめ教室」「とびうお教室」、島尻教育事務所教育相談員が月一回集まり情報交換、事例研究などを行っています。学校現場での不登校への対応の実践的な取組について検討する場になっています。

3 教育現場で使えるカウンセリング実践講座

不登校等の問題に対応するために教育現場で使えるカウンセリングの基本的な考え方や技法を身につけるために講座を開催します。県内の第一線で活躍している先生方をお招きして講話・演習を行います。詳しくは各機関へ配布した案内をご覧ください。多くの先生方の参加をお待ちしています。

4 心因性不登校児童生徒保護者相互支援の会

島尻教育事務所管内の心因性不登校児童生徒の保護者を対象に隔月一回開催しています。下のグラフは第1回目の会への参加前後の気持ちの変化（最低1～最高10）の分布です。会に参加するこ



とで随分、気持ちが楽になったことが分かります。同じ悩みを持つ保護者同士が本音で話し合うことにより、「気持ちが楽になった」「勇気づけられた」等の感想が数多くありました。

最後になりますが、SSNでは「つなぐ」ということがキーワードになります。誰かにつながっていることで、支えられ、勇気づけられ、一人で問題を抱え込まず、いろいろな視点やアプローチで解決への糸口をつかむことができます。今後もより一層、SSNを充実・強化させたいと考えています。SSNに関するご意見がいただければ幸いです。

実践事例紹介 -第18期教育研究員の実践から- (幼稚園教育)



みんなと遊ぶと楽しいな！

- 遊びの中での感情体験を通して -

大里村立大里南幼稚園教諭 屋 我 松 枝

(1) 研究の概要

人とのかかわる力を育てるためにチーム保育を行い、遊びの中での感情体験をする場面から積み重ねて保育記録をとっていくことで多面的・多角的な内面理解をし、幼児の発達の方向を見通して発達を促す援助をすることができた。

(2) 指導上の工夫点

友だちと一緒に遊びを進める楽しさを味わわせるための援助の工夫を行った。

- ① 環境構成の面から
 - ・ 幼児の興味を引き出し、遊びたくなるような環境構成
 - ・ 身近な素材の提示
- ② 教師の援助の面から
 - ・ 全職員でチーム保育を行い、多角的・多面的な内面理解と援助を行う。
 - ・ 教師も一緒に楽しむ中で、遊びの成功感を共感できるようにする。

(3) 指導の実際



友だちと考えたり試したり、工夫して遊びを展開する



順番を守って巧技台で楽しく遊ぶ

(4) 幼児の変容

- ① 友だちとかかわって、自分の思いを伝え合ったり、相手の思いを受け入れたりして楽しく遊ぶ姿が見られた。
- ② 素材の特性を生かして考えたり試したりして、工夫しながら友だちと遊びを進める姿が見られた。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 感情体験をする場面から幼児の気持ちを教師が肯定的に受け入れてあげたり、会話の仲立ちをしたりして援助をしたことで、相手の気持ちに気づいたり、自分の気持ちの取り直しをする等、人とのかかわる力の育ちが見えてきた。
- ② チーム保育を行い、積み重ねて保育記録をとっていくことで、多面的・多角的な内面理解をし幼児の発達の方向を見通して援助をすることができた。
- ③ 発達を促す援助のあり方を探るために、日々の保育を積み重ねていくことの定着を図る。
- ④ 幼児の発達する姿が捉えやすく継続できるような保育記録の工夫をする。
- ⑤ チーム保育の充実を図り、教師同士の意識の高揚、資質向上に努める。

※詳細は平成 15 年度 研究報告書第 18 号に掲載

〈幼稚園教育〉

幼稚園のお庭は楽しいよ！

ー保育カンファレンスを基にした幼児理解と自然環境や援助の工夫を通してー



南風原町立南風原幼稚園教頭 翁 長 麗 子

(1) 研究の概要

友達と一緒に自然環境に親しみ触れ合う中で、感動したり疑問を持ったりして教師や友達と共感することによって豊かな心が育まれるように保育カンファレンスを基に幼児理解を深め、自然環境の工夫と援助のあり方を探った。

(2) 指導上の工夫点

心豊かな幼児を育成するために、次のような自然環境や援助の工夫を行った。

① 自然環境の工夫

- ・ミニフェンスを設置し、動物との触れ合いや観察ができるようにした。
- ・ガジュマルの木にはしごを取り付け、木登りが楽しめるようにした。
- ・昆虫や水辺の生き物と触れ合えるように植物の精選や池の周辺の整備をした。
- ・友達と一緒に休息や自然の風の心地よさが得られるよう、ベンチを設置した。

② 援助の工夫

- ・教師も一緒に遊びを楽しむことで、興味を示さない幼児へ働きかけをしたり、自然との接し方について幼児のモデルを示し援助した。
- ・ティーム保育を行うことで、活動の各場面において幼児の気づきや発見を受け止め、疑問を投げかけたり等の援助を行うことが出来た。

(3) 指導の実際



「木の上のシャボン玉、
遠くまでよく飛ぶよ！」



「葉っぱのお面どう？素
敵でしょ！」

(4) 幼児の変容

- ① 羽化した蝶や観察後の虫を進んで放してあげたり、食草を欠かさず準備したり、優しさやいたわる姿が見られるようになった。
- ② 一人で室内遊びが多かったAさんが、自然環境の工夫や内面を理解し援助することで、友達と感動を伝え合い、戸外でも楽しそうに遊ぶ姿が見られるようになった。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 保育カンファレンスで具体的な事例を議題にすることで、様々な意見や情報が出され、全職員が幼児を知る機会となり、一人一人の発達に沿った援助を心掛けるようになった。
- ② 多くの幼児が自然環境に親しむようになり感動を伝え合い、優しさやいたわりの気持ちが見られ、豊かな心の芽生えを育むことが出来た。
- ③ 豊かな心を育むためのよりよい援助ができるよう、更なる保育カンファレンスの充実を図る。

※詳細は平成15年度 研究報告書第18号に掲載



お手紙を書こう

— 思いを伝える「手紙を書くこと」の言語活動を通して —

糸満市立兼城小学校教諭 當 銘 恵 子

(1) 研究の概要

児童の書く意欲を高めるために、「手紙」形式を取り入れ、生活科と関連させた書く場の設定や言語意識を持たせた学習指導を工夫した。

(2) 指導上の工夫点

児童が生き生きと楽しんで書くことができるために、次のような工夫を行った。

- ① 相手・目的意識を明確にする工夫
 - ・生活科で見聞したことや体験したことを1年生に伝え、招待する文を書かせる場を設定した。
- ② 思いを伝える手紙の組み立てを考えさせる工夫
 - ・お手紙すいすいワークシートを利用して、初め・中・終わりに書くことを明確にした。
- ③ 自分の組み立て表を見直させる工夫
 - ・読み返しカードを利用して、4点について自己評価させた。

(3) 指導の実際



お店の商品のこともお知らせしたいな。



初め・中・終わりに書くことがぬけてないかな？

(4) 児童の変容

- ① 相手・目的意識を持たせ、必然的に書く場を設定したので、意欲的に取り組めるようになった。
- ② 文の構成を考えさせることで、手紙の書き方がわかり、楽しんで書くことができるようになった。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 生活科との関連を図り、探検したことを生かし、お店やさんごっこへ1年生を招待する手紙を書くという場を設けることで、より身近で具体的な相手・目的・場面意識を持たせることができた。
- ② [手紙]という取り組みやすい言語活動で、相手に思いを伝え、相手からも返事がもらえるという喜びを得ることで、さらに他の人にも書いてみたいというにつなげることができた。
- ③ 児童一人一人に応じた指導・評価のあり方を工夫したい。
- ④ 児童の「書きたい」という思いを大切にするためにも、教材と関連させた言語意識を持たせた活動をさらに工夫したい。

※詳細は平成15年度 研究報告書第18号に掲載



伝えたいことをよく分かるように話そう

－教材の選定、相手・目的意識の明確化、言語環境の整備を通して－

知念村立知念小学校教諭 比 嘉 頼 子

(1) 研究の概要

分かりやすく話す力をつけるために、児童が興味を持って取り組めるような教材の選定を行い、相手・目的意識を明確にした学習指導の工夫や言語環境の整備を試みた。

(2) 指導上の工夫点

話すこと、聞くことに興味を持ち、順序に気をつけてよく分かるように話すために、次のような工夫を行った。

① 話す順序や内容を整理するためのカードの工夫

・順序カード

② 相手意識・目的意識を明確にした指導の工夫

・ワークシート ・学習形態

③ 話すことに対する抵抗をなくすための言語環境の整備

・ソーシャルスキルトレーニング ・朝のサイコロスピーチ ・一日の反省

(3) 指導の実際



グループでの練習の様子



発表の様子

(4) 児童の変容

- ① 相手意識・目的意識を明確にした学習指導により、「相手に伝えたい」「相手のことを知りたい」という気持ちが芽生え、メモに頼らず相手を見ながら話したり、うなずきながら聞いたりすることができるようになった。
- ② 順序カードの活用により、全員が順序を意識して話すようになった。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 興味を持って取り組めるような教材・話材を選定することにより、「話したい、聞きたい」という思いが高まった。
- ② 言語環境を整備することにより、話すことへの抵抗が和らぎ、話すことが好きな子が増えた。
- ③ 聞く態度を定着させるための全教育活動を通じた継続的な指導
- ④ 学校全体を通しての系統立てた指導の取り組み

※詳細は平成15年度 研究報告書第18号に掲載



わり算スイスイできたよ！ —習熟度別指導による少人数授業を通して—

糸満市立真壁小学校教諭 来間 勝枝

(1) 研究の概要

基礎的・基本的事項の定着を図るために、単元「1けたでわるわり算」の中で、計算のしかたや筆算のしかたを理解させるための学習指導の工夫をした。

(2) 指導上の工夫点

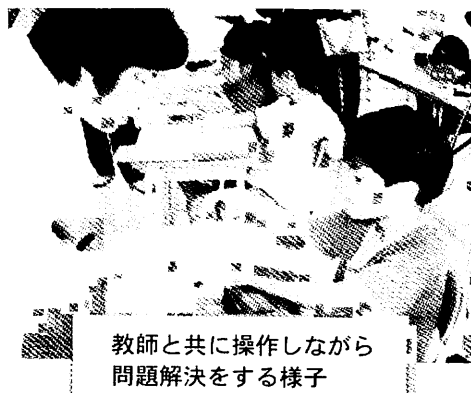
計算のしかたや筆算のしかたを理解させるために、習熟度別指導による少人数授業の工夫をした。

- ① 学習集団編成の工夫
 - ・レディネステスト、オリエンテーション
- ② 教材・教具の工夫
 - ・問題提示のしかた、既習事項を生かす工夫、模擬貨幣の準備
- ③ 個に応じた指導の工夫
 - ・コース別学習の工夫、具体的な操作活動

(3) 指導の実際



計算のしかたを具体的操作
を通して考える様子



教師と共に操作しながら
問題解決をする様子

(4) 児童の変容

- ① 習熟度別指導による少人数授業を行うことで、学習内容の理解が深まり、「1けたでわるわり算」の計算ができるようになった。
- ② 個に応じた指導を行うことで、「わかる」「できる」喜びを味わわせることができた。学習意欲がなく、いたずらの多かったAさんは、学習にもやる気が見られるようになってきた。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 学習集団編成の工夫や操作活動で、個に応じた指導をすることができ、基礎的・基本的事項を定着させることができた。
- ② 多くの児童に習熟度別指導のよさを理解させることができた。
- ③ 習熟度別指導についての担任と綿密な打ち合わせの時間確保
- ④ 発展的な学習教材の開発

※詳細は平成 15 年度研究報告書第 18 号に掲載



英語でコミュニケーションできちゃった！

－ 選択教科での会話表現の指導を通して －

糸満市立潮平中学校教諭 赤 嶺 幸 乃

(1) 研究の概要

選択教科において、実践的コミュニケーション能力を伸ばすための学習指導の工夫として、英語を自然に使う雰囲気作り、会話を続けるための表現や工夫の習得、学んだことを生かす場の設定を研究した。

(2) 指導上の工夫点

実践的コミュニケーション能力を伸ばす学習指導の工夫として次のような取り組みを試みた。

- ① 英語を自然に使う雰囲気作り
 - ・英語での授業，体を動かす活動，チームティーチングなど
- ② 会話を続けるための表現や工夫の習得
 - ・会話を続けるための表現集，話題メモ，身近な話題の設定など
- ③ 学んだことを生かす場の設定
 - ・少人数での活動，多くの人との会話，ゲームや小道具の活用，サイコロトークなど

(3) 指導の実際



ゲームを通しての英語
を使っている様子



グループでのサイコロ
トークでの様子

(4) 生徒の変容

- ① 自然に英語を使う雰囲気の中で，間違えることを恐れずに話をするようになった。
- ② サイコロトークで，沈黙することが少なくなり，相づち，つながぎ言葉や困った時は繰り返しを要求したり，質問をしたりするなどして会話を続けることができるようになった。
- ③ 学習前は単語での発言が多かったが，学習後はきちんとした文での発言が大幅に増えた。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 積極的にコミュニケーションを図ろうとするようになり，会話を継続するための表現や工夫を取り入れて全員が3分間会話を続けることができた。
- ② 選択教科で，どのように系統的に会話表現の指導を行なうか，また本研究の取り組みを，学習の個人差にどのように対応しながら日々の授業にも取り入れていくかを研究する必要がある。

※ 詳細は平成15年度 研究報告書第18号に掲載



友だちのいいところ発見！ -授業に生かすカウンセリングの手法を通して-

東風平町立東風平中学校教諭 小橋川 あゆみ

(1) 研究の概要

よりよい人間関係を育むために、学級活動で構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを実践した。さらに、そこで身につけた態度や技能を実践する場としてカウンセリングを生かした教科指導を行った。

(2) 指導上の工夫点

- ① 学級の実態を的確に把握できるように、Q-Uテストを実施
- ② 学級の実態に即したエクササイズ（構成的グループエンカウンター）の実施
 - ・ いいとこさがし、きみは名探偵、4つの窓、すごろくトーキングなど
- ③ 普段の生活（授業中含め）で必要なソーシャルスキルトレーニングの実施
 - ・ あいさつ、上手な聴き方、質問の仕方、など
- ④ 構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングの要素を教科指導に生かす工夫
- ⑤ 毎時間のふり返りで「自他を認める気持ち」が高まるような工夫

(3) 指導の実際



グループが声をそろえて聖徳太子ゲームほしている様子



シェアリングで友達の良いところを発表している様子

(4) 生徒の変容

- ① Q-Uテストの結果、学級生活満足群に属する生徒が39%から64%に増え、非承認群に属する生徒が39%から19%に減った。
- ② 授業中に「友達と協力する」「発表する」「話し合うことが好き」と答えた生徒が増えた。
- ③ 毎時のふり返りで自分や友達の頑張りを認めることができた。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 学級活動において構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを実践することにより、生徒の相互理解が深まり、受容的・共感的雰囲気がつくられるとともに、人間関係づくりのスキルを身につけることができた。
- ② 教科指導において授業に生かすカウンセリングを実践することにより、「話す・聞く」授業に対する抵抗が軽減され、生徒の「自他を認める気持ち」が高まった。
- ③ 学級に満足していない生徒への支援を工夫する必要がある。
- ⑤ 他教科との連携や、学年・学校で組織的・継続的に取り組む必要がある。

※詳細は平成15年度 研究報告書第18号に掲載

長期研修をふり返って



糸満市立真壁小学校教諭

来間 勝枝

長年の夢が叶い、喜びと不安を胸に、第18期生として島尻教育研究所に入所した日のことが、昨日のことのように思い出されます。

3月のオリエンテーションで、委員長の役を引き受けたものの、人前で話すことの苦手な私にとって、一番の関門は入所式での代表挨拶でした。このことを始めとし、研修生活でいろいろなことを体験し、学び、十分にさび落としをして学校現場に戻る日が近づいてきた今、研修の機会に恵まれたことに改めて感謝の気持ちでいっぱいです。行政のバックアップはもちろんのこと、いろいろな方々の支えがあって研修ができることを肌で感じながらの充実した半年間でした。

歌声が響きわたる月曜日の朝のミーティング。逍遥歌を歌う度に歌詞と曲に感動でした。水曜日の「大切な話」、金曜日の「3分間スピーチ」では、研究員7名、甲斐主事、安谷屋主事、喜名所長のいろいろな体験、考えを聞きながら、その人柄にふれることができました。教育の話題の度にほめる教育がいかに大切か心に染み、自分を見つめ直す良い機会でした。初めのうちは、話すことが苦手なため、あまり乗り気でなかったスピーチも、次第に楽しみへと変わっていったのには、自分でも意外に思いました。

所内研修での玉寄局長、知花課長、実践家として頑張っておられる先生方のご講話は、自分のこれまでの仕事をいろいろな角度から見つめさせ、自分がなすべきこと、努力すべきこと等も再認識できました。運営委員長の宮城恒彦先生には、ご講話の他、沖縄戦体験記『寒さの中を海へ』の小冊子、色紙等を頂き、その温かさに大変感謝しています。また、伊志嶺忠一先生を始め、指導講師の先生方には、豊かな経験から研究に対する直接の助言を賜ったばかりでなく、教職に携わる者としての責任と誇り、情熱と真剣さを教示して下さい、感謝の念でいっぱいです。

所外研修では、OCC本社でのパソコン研修、野鳥の観察、島尻養護学校や沖縄豊学校の訪問、沖縄海水揚水実証試験場、名護市マルチメディア館、国際海洋環境情報センター、沖縄少年院・沖縄女子学園の視察等、盛りだくさんの研修を受けることができたことを感謝しています。普段、めったに行くことのできないこれらの施設訪問・視察は、自分の視野を大きく広げてくれました。

クラブ活動では、三味線練習に欠かせない代表的な曲、「安波節」が歌えるようになったことも大きな収穫です。三味線がますます好きになり、嬉しい限りです。

このように、研修内容も多種多様にわたり、毎日が学びと感動の日々でした。なかでも、いつでもおだやかで温かいご指導を下された喜名所長を始め、毎日を共にする安谷屋・甲斐両指導主事、研究員の仲間の先生方には、本当にたくさんのことを学ばせてもらい、支えて頂きました。喜名所長、安谷屋・甲斐両主事には懇切丁寧にご指導頂き、研究の進め方やレポートのまとめ方、研究に対する姿勢、教師としての心構え等、研究校でも学べないたくさんのことを学ばせて頂きました。家族のような雰囲気でも気軽に何でも話せた仲間。この仲間がいたからこそ楽しく研修ができたんだと、何度思ったことでしょうか。すばらしい仲間巡りに出会ったことを幸せに思います。また、いつでも側から支えて下さったしのめ教室の城田先生、修子さん、行政組合の皆さんにも大変お世話になりました。

最後になりましたが、このような貴重な研修の機会を与えて下さった糸満市教育委員会、南部広域行政組合、真壁小学校の新城静治校長先生及び職員の皆さん、関係各位の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成16年度 教育研究員募集要項

1 事業目的

今日的教育課題を解決していくために、教科・領域・総合的な学習の時間に関する理論研究と実践力の向上及び教育職員としての教養の深化を図り、使命感を持った人材を育成して島尻教育の活性化と発展に資する。

2 応募資格

- (1) 島尻教育事務所管内の幼稚園・小学校・中学校の教育職員（教諭）で、教職経験3年以上経過していること。
- (2) 原則として県内外の研修機関における長期研修修了後3年以上経過していること。

3 研究期間

前期 平成16年 4月1日（木）～平成16年9月30日（木）

後期 平成16年10月1日（金）～平成17年3月31日（木）

4 研究内容

本県及び学校等の課題をふまえた各自の研究テーマについて理論研究及び実践研究を深めるとともに、当教育研究所が計画する所内講座（情報リテラシー、教育評価等）及び所外講座（環境学習、障害児学校視察等）を受講する。

(1) 研究テーマ

- ① 研究員の研究テーマは、「指定テーマ」と「任意テーマ」のいずれかとする。

ア 指定テーマとは、当教育研究所が設定する下記のテーマである。

「基礎的・基本的事項の定着を図る学習指導の工夫」

イ 任意テーマとは、応募者が設定するテーマである。

※ 島尻管内の校長・教頭・指導主事等が指導講師となり、研究の進め方、内容等について指導・助言する。

(2) 研究教科等

- ① 指定テーマ：小学校（国語、算数、社会）、中学校（国語、数学、社会、英語）
- ② 任意テーマ：幼稚園教育、小・中学校の各教科及び道徳、特別活動、総合的な学習の時間、学年・学級経営、進路指導、教育相談・生徒指導等

5 募集人員

前期	幼稚園（2名）	小・中学校：指定テーマ（小学校1名）、任意テーマ（小・中学校4名）
後期	幼稚園（2名）	小・中学校：指定テーマ（中学校1名）、任意テーマ（小・中学校5名）

6 応募方法

- (1) 応募者は、応募書類（様式1、2、3）を整え学校長・園長に提出する。
- (2) 学校長・園長は応募書類（様式1、2、3）に、推薦書（様式4-1、様式4-2）を添えて各1部ずつ厳封して教育委員会に提出する。

様式1：教育研究員応募書 様式2：希望研究テーマ 様式3：履歴書〔平成16年4月1日現在で記入〕

様式4-1：学校長・園長の推薦書〔各教育委員会教育長宛に厳封〕

様式4-2：学校長・園長の推薦書〔島尻教育研究所長宛に厳封〕

7 応募書類の提出方法・期日

- (1) 学校・幼稚園から市町村教育委員会へは、平成15年11月4日（火）までとする。
- (2) 市町村教育委員会から島尻教育研究所へは、平成15年11月10日（月）までとする。

8 教育研究員の決定通知

平成15年12月8日（月）までに、島尻教育研究所長より各市町村教育委員会並びに所属長宛に通知する。